

自分らしく思いや考えを伝え合う子どもの育成

小 学 校 吉岡亜紀子、金光 賢史、岡田 海斗

研究協力者 三浦 和尚、中西 淳（愛媛大学）

赤松 聖則（愛媛県教育研究協議会）

1 主題設定の理由

情報機器が普及し、多様な価値観を持つ人と出会い、情報のやり取りができる社会になったことで、学校では一層コミュニケーション能力を育むことが求められるようになった。情報機器を通して得られる人とのつながりは、実際に会って話したり、聞いたりすることから得られるものとは大きく隔たりがある。これからの世の中は、子どものときから顔と顔を合わせ、人を知り、思いを通じ合わせるといったことを多く経験することが必要ではないだろうか。

このような時代、国語科は、「伝え合う力」を育む場として、大きな役割を担う。

学習材を通して友達と考えを共有したり、協力して学習課題を解決したりするためには、表情や態度、そして言葉で伝え合うことが必要である。言葉の学びを通してコミュニケーションの素地を養い、その力を育むことが授業においてますます重視されなくてはならない。

相手の思いを受け取ったり、場に応じた言葉を選択したりしながら伝え合うことで、考えは広がり、深まっていく。話すことが得意な子、書くことが得意な子、それぞれ得意とする表現方法は違うかもしれないが、あらゆる場面において国語科の学びで身に付けた力を発揮することができるように、自分の個性を知り、自分らしく伝え合うことができるようにしていきたい。そして、自分のよさを発揮し、自信を持って伝え合うことができる子どもを育成していきたい。

以上のように考え、上記の主題を設定して、研究を進めていくこととした。

2 〈自己効力感〉が高まる国語科の授業づくり

(1) 国語科における〈自己効力感〉が高まっている姿

自分らしく思いや考えを伝え合う姿

国語科では今期研究で目指すべき子どもの姿を「自分らしく思いや考えを伝え合う姿」と捉え、「出会い」「追究」「振り返り」の各場面で〈自己効力感〉が高まっている子どもの姿を以下のように整理した。

「出会い」の場面

学習課題に興味や関心を持ち、やる気に満ちあふれている。
言葉についてこれからの学びで得るもの、また、その学びが持つ意味や価値を感じている。



「追究」の場面

多様な対話を楽しみ、言葉に対する新たな発見や気づきを得ている。
仲間と自分らしさを生かして進んで対話している。



「振り返り」の場面

言葉について学んだことの意味や価値に気づき、学んだことを生かして自分なりに表現活動を楽しんだり、他教科等や実生活に生かしたりしている。

(2) 〈自己効力感〉が高まる指導と評価

ア 「出会い」の場面

- ・心に響く教材やわくわくするような言語活動との出会い
- ・学習課題とそれを受けた個々の目標（自分のこれまでの学び方や能力を踏まえて）の設定
- ・学習への自信や期待感の自己評価

「出会い」の場面では、これからの学習で伝え合おうとする意欲が高まるように動機付けを行う。そのために、まず、子どもが言葉そのものに興味・関心を持ち、心動かされるような魅力的な教材や話題を提示し、その出会いを工夫する。また、その教材や話題を用いて行う言語活動も、子どもがわくわくするような活動を設定する。文章を読んで「なぜ？」と疑問を感じさせることや、友達との感じ方の違いを交流させること、実生活に即した話題を提供することなどで、学習への期待感を持たせる。

また、学習課題の設定についても留意したい。子どもが発した問いを基に学習課題を設定したり、教師がもう一度読み直す必要のある問いを発し、そこから課題を設定したりする。自ら解決してみようと学習者を誘う課題や、自分の考えを友達に伝え、互いに話し合いたくなる課題、話し合うことで自らの思いや考えが、より深まり、確かな思いや考えに到達することのできるような課題などを子どもと共に作り上げていく。

さらに、この学習をすることで、どのような力が身に付き、そのために自分はどのような学習をすればよいのかという見通しを明確に持つことができるようにする。これまでの学習で培ってきた個々の能力や技能を省みながら、自分の目標を一人一人に考えさせる。それに対して教師も的確に助言し、学習目標や計画を練り上げていくようにする。「できるようになりたい」という期待感に支えられた子どもは、難しい課題にも挑戦し続けるようになるであろう。

「出会い」の場面では、「課題解決や自分の目標達成への自信があるか」ということ、また、「これからの学習に対して期待感を持っているか」ということを導入時に記述させたり、数値化や記号化させたりして評価し、これからの指導の指標として教師は生かしていく。

イ 「追究」の場面

- ・伝え合いの目的の明確化
- ・伝え合いの方法の工夫や、多様な相手や場の設定
- ・スキルの習得状況の把握と個に応じた指導

「追究」の場面では、子どもが「出会い」の場面で立てた学習目標や計画に基づきながら、伝え合うためのスキルを確実に習得させる。伝え合うためのスキルとは、「互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりするスキル」のことである。このスキルの確実な習得のために、子どもの発達段階に応じて、多様な伝え合いの相手や場の設定を工夫する。

また、「自分の作文がよりよくなるように、よさを見付けたり、アドバイスをしたりしよう」、「話し合っていて、自分の読みと友達の読みの違いを見付けよう」など、その伝え合いの目的を明確にすることを大切にしている。考えを伝え合うのか、議論するのかなど、伝え合いの目的を明確にして場を設定する。そのためには、必然性のある課題設定、小集団の意図的な編成を考慮する必要がある。

さらに、伝え合いの方法の工夫をする。話し合うだけでなく、書くことによる伝え合いや読書を通じた作者との伝え合いなど、様々な方法で授業を構成していくようにする。

「追究」の場面では「伝え合うスキルを習得できているか」と、「伝え合うことを楽しんでいるか」という視点で子どもを評価し、その評価を基に個に応じた指導を大切にする。

ウ 「振り返り」の場面における重点項目

- ・ 学びを生かす伝え合う場の設定
- ・ 学習を通じた自分の変化の認知
- ・ 自己評価と他者評価

「振り返り」の場面では、これまでの学習を通じて自分にはどのような力が身に付いたのか、何ができるようになったのかということ、子どもが実感できるようにしなくてはならない。そのために、学んだことを他教科等や実生活のどこで生かすことができるかということ子どもに問い掛けるとともに、それを生かすことができる具体的な場を用意する。

さらに子どもには、「出会い」の場面で設定した自分の学習目標と比較して今の自分はどうかということ自己評価させる。また、教師や友達、家族など他者からの評価を与え、子どもがそれらと比較しながら今の自分を冷静に見詰められるようにしたい。

(3) 教科等横断的な単元の構想

国語科で育む「伝え合う力」は、他教科等の学びに必要な資質・能力である。この力は、他教科等の学習内容を国語科の内容と重ねたり（C 学習内容の関連性を重視）、他教科等での学習に生かすために国語科で取り立てて学んだり（D 資質・能力の関連性を重視）することにおいて、さらに伸ばすことができると考える。国語科では、学びの深まりによって「書いたことを知らせたい」「直接、人と会って話をしてみたい、聞いてみたい」といった相手意識が高まるときがあるとともに、高めることが必要な場合もある。教師が子どもを見取り、身に付けた力を生かし、発揮できる実践の場として特別活動や学校行事、他の教科等と関連させて教科等横断的な単元を構想することは、子どもの欲求を満たし、互惠性のある充実した学びの場を生むことになると考える。

これまでの研究の実践から以下のような単元を構想した（図1、図2）。

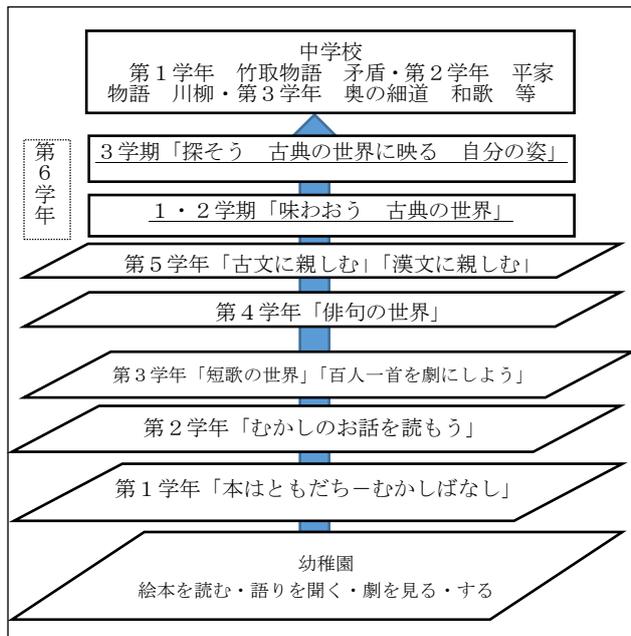


図1 ツーステージ型（6年 学習内容の系統性を重視）

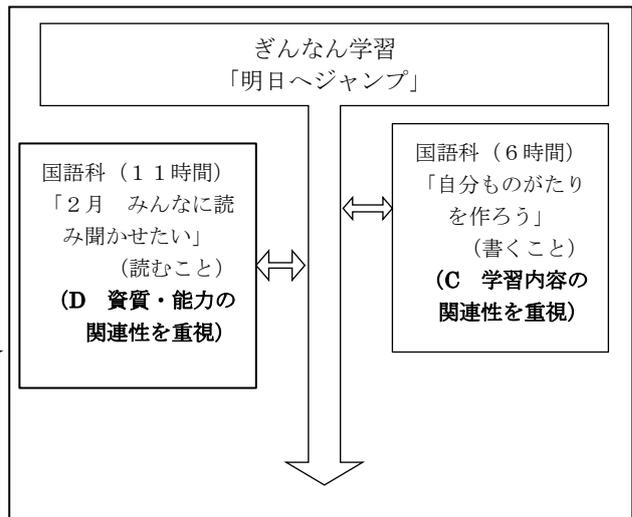


図2 プロジェクト型
（2年 ぎんなん学習を軸として）

（岡田 海斗）

愛媛附属小 国語科授業づくり

「自分らしく思いや考えを伝え合う姿」

- ・言葉について学んだことの意味や価値に気付いている。
- ・学んだことを生かして自分なりに表現活動を楽しんだり、他教科等や実生活に生かしたりしている。

これからもいろいろな文章を読み、考えを広げよう。

様々な考えや思いを言葉で伝えて合って考えを深めよう。

生活をよりよくするために意見を出し合い、話し合って解決していこう。

書きながら考えをまとめ、広く発信しよう。

学びを生かせる伝え合う場の設定

学びを通じた成長を認知させる

評価の方法

課題解決の達成度や達成感を記号・数値化、記述 → 自己分析

他者からの評価

身に付けた伝え合うためのスキルを生かした「振り返り」

- ・多様な対話を楽しみ、言葉に対する新たな発見や気づきを得ている。
- ・仲間と自分らしさを生かして進んで対話している。

読んで分かったことが伝わるように工夫して表現しよう。

書いたものを読み合ってよさを見付けたり、アドバイスしたりしながら考えを深めよう。

話し合いながら友達との考えの相違点を見付け、考えを広げよう。

場に応じて思いや考えを伝えられるようにしよう。

伝え合いの目的の明確化

多様な相手や場

伝え合いの方法の工夫

伝え合うためのスキルの習得状況の把握

評価対象児童の設定

→ 個に応じた指導

伝え合うためのスキルを確実に習得させる「追究」

- ・学習課題に興味や関心を持ち、やる気に満ちあふれている。
- ・言葉についてこれからの学びで得るもの、また、その学びが持つ意味や価値を感じている。

読もう。書こう。話そう。聞こう。知ろう。覚えよう。

心に響く教材 わくわくするような言語活動

目標と方法の具体的提示 学習課題（全体と個） 学習計画

課題解決への自信を記号・数値化、記述 → 自己分析

個の学習課題を記述

伝え合いたいという意欲が高まる「出会い」

振り返り

追究

出会い